

## 甲賀流忍者の歴史

### 起源にまつわる伝承

甲賀流忍者の起源は不明ですが、日本文化に多大な貢献をした聖徳太子（574-672）に関連する伝説があります。聖徳太子にはスパイとして優れた手腕を発揮した大伴細人（おおとものほそひと）という甲賀出身の使用人がいたと伝えられています。しかし、忍者について初めて文献に登場するのは14世紀のことです。

### 戦国時代（1467-1615）

甲賀地域では、大名の権力がほとんど及ばないという当時としては珍しい状況の中で、地域自治が発展しました。地元の家々は、血縁や領地のつながりに基づいて集団を形成し、甲賀郡中惣と呼ばれる自治組織を立ち上げました。この自主規制と地域の集団防衛戦略は、安定を維持し、一強の台頭を防ぐ上で極めて重要でした。

戦国時代、他地域の武将は甲賀流忍者を雇い、その情報収集能力を頼りに戦いに勝利していました。

### 最初の重要な戦い（1487年）

将軍足利義尚（1465-1489）は1487年、軍を率いて甲賀の六角氏に侵攻しました。

甲賀流忍者は六角氏を中心に結集し、53人の忍者が奇襲戦術で幕府軍を撃退しました。そのうちの21人が特に大胆な夜襲をかけ、義尚を負傷させました。これらの攻撃により、甲賀の忍者軍団は全国的に注目されるようになり、戦いに参加した忍者一族は崇敬されるようになりました。

### **徳川家康に信頼された忍者たち（1562年）**

1560年、徳川家康（1543-1616）は姻戚関係にあった今川家から独立しました。織田信長（1534-1582）と同盟を結んだ家康は、1562年、堅固な上郷城（愛知県）を攻撃するため、甲賀流忍者に協力を要請しました。

約200人の甲賀流忍者が上郷城に潜入し、城主で今川家の鶴殿長照を殺害しました。家康は今川氏に捕らわれていた妻子の無事な帰還と引き換えに、長照の二人の息子を人質に取りました。家康は甲賀流忍者たちに、この成功の一翼を担ったことを感謝する手紙を書いたとされています。

### **家康脱出における活躍（1582年）**

天正10年（1582）6月2日、信長は家臣の明智光秀（1528-1582）に襲撃され、京都本能寺滞在中に死去しました。

光秀の軍勢は家康が岡崎（愛知県）の拠点に戻るのを阻止しようとしていたため、忍者は

家康が甲賀を通過する際、家康を保護する旨を申し出て、徳川家との関係を強化しました。

2週間後に光秀が敗れたことで信長の仇は討たれ、1603年に家康が将軍となって日本が統一される道が開かれました。

### **忍者を処罰した豊臣秀吉（1585年）**

豊臣秀吉（1537-1598）も信長の家臣の一人で、権力の座に上り詰めました。1585年、彼は甲賀流忍者に水攻めの一環として堤防の築造を命じましたが、堤防の一つが決壊し、作戦は失敗に終わりました。忍者たちは叱責され、甲賀忍者たちの領地を没収しました。甲賀に残って農民として生計を立てる者もいれば、他の仕事を求めてこの地を離れる者もいた。

### **伏見城の戦い（1600年）**

伏見城の戦いは、日本の戦国時代を終わらせた関ヶ原の戦いにつながる、小さいながらも歴史的に重要な戦でした。家康の家臣であった鳥居元忠は伏見城に住んでいましたが、10日間、石田三成（1563-1600）とその軍勢に包囲されました。甲賀百人衆と呼ばれる忍者集団が伏見城の戦いに家康側として参加し、彼らの活躍により、家康はより戦略的な戦いに集中することができました。1603年、家康が征夷大將軍となった後、家康は江戸を守るため、生き残った甲賀百人衆を招請しました。

## **江戸時代 (1603-1868)**

1603 年、徳川家康は日本を統一し、江戸幕府を開き、260 年以上続く平和の時代が到来しました。忍者の需要は全般的に減少し、貧困に直面する家もありました。

### **島原の乱**

1637-38 年の島原の乱は、甲賀流忍者が活躍した最後の大きな戦いです。若きキリスト教徒の天草四郎（1621-1638）は、島原（現在の長崎県）の原城で幕府に対する反乱を起こしました。

反乱を阻止するために派遣された部隊の中に甲賀流忍者 10 人がおり、彼らの任務は城内から情報を収集することでした。彼らは城内に潜入し、反乱軍の食糧供給を妨害することに成功しましたが、聞き慣れない九州の方言に戸惑い、敵の罠にかかりました。

### **甲賀古士**

天下統一後、身分を失った忍者たちは、自分たちの伝統を守ろうと「甲賀古士」を名乗りました。彼らは 17 世紀後半に何度も幕府に武士の身分を請願したが、叶うことはありませんでした。

そして 1789 年、甲賀古士は江戸に旅立ち、幕府に自分たちの血統と職業意識を証明す

る目的で「万川集海」（忍者の知識を詳しくまとめたもの）を献上しました。その努力の甲斐

あって、古士たちは甲賀の家族のために持ち帰るための銭や銀を受け取れました。

## 甲賀士五十人

甲賀に残って農民として生計を立てたり、官職に就いたりした忍者もいれば、甲賀を離れた忍者もいました。彼らは護衛、警備、海岸防衛などの仕事に就いたが、一部は甲賀に戻り、伏見城攻防戦での活躍が家康に認められて甲賀士五十人を結成しました。

1637年、甲賀士五十人は江戸に移り、幕府を守る砲術隊として活躍しました。1849年、甲賀流忍者の子孫たちが伏見城攻防戦 250周年を記念して集まり、先祖を称えました。

甲賀流忍者は次第に表舞台から姿を消していきましたが、その子孫たちは今も自分たちの伝統を大切に、甲賀の故郷に愛着を持っています。